



システムの全容



親局 1 局に対し子機
最大 9 9 局の利用が
可能で、同一現場に
複数（最大 6 4 0 ）
のグループ構築がで
きます

重機オペ用親局（例）



親局（重機オペ局）について

子機から呼ばれるとこの回転灯が点灯し、音声スピーカーマイクから聞こえます。

子機の通話中、常に点灯します。

回転灯が回っている事が送信者に見えれば、通知の確認にもなります。

緊急通報時は、回転灯とアラーム音によりオペに通知します。もちろん会話が可能です。



DC 24Vシガーソケットへ

アラーム:最大
90db/m

緊急通報解除ボタン

通話通知ランプ点灯「切」ボタン

子機は、防水堅牢型と胸ポケットにも収まる小型の2機種から選択できます。

重機オペの方は、このスピーカーマイクで運用します。

子機について、一番シンプルな使い方は、運用形態（後述）4と5だけの利用でしょう。この場合、この親局も無線機本体の操作は、なにもありません。



子機の通常時の運用について

大音量スピーカー

この防水頑強モデルは、操作ツマミ全て（音量調整を含む）をロックすることができます。

重機オペへの通報は、PTTボタン操作のみとなります。（PTTボタンを押して送話）

PTTボタン

重機オペへの連絡には、このボタンを押して送話します。（無線機に向かって話します）ほかに操作はありません。

内蔵マイク



内蔵マイク

小型スピーカー

この小型モデルは、音量調整を除く操作ツマミをロックすることができます。

重機オペへの通報は、PTTボタン操作のみとなります。（PTTボタンを押して送話）

運用形態4で、具体的にご説明します。

運用形態1～3につきましては、この使い方をする方に操作（呼び出し方法の選択 / ボタン操作）を覚えていただく必要があります。